

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470104060		
法人名	社会福祉法人温寿会		
事業所名	グループホーム庄の原苑(なごみ)		
所在地	大分県大分市大字荏隈字庄の原1797番地		
自己評価作成日	平成24年2月3日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・高台の住宅地にあり、自然環境に恵まれている。市街地に近く、ご家族が立ち寄りやすいことから、ご家族の皆さんが、いつでも気軽に来て頂ける施設を目指している。
 ・本人の思い、希望をかなえるための、個別支援に取り組んでいる。
 ・法人運営のクリニックとの連携を図りながら、健康管理を充実させている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は緑豊かで、散歩コースに適した環境である。理念に沿ったケアを展開するために会議もユニット会議・グループ討議・全体会議等に分かれて行っている。個別の一言シートを考案し、日々のきずきを記入しケアプランに活かし、ケアの指針を職員が共有して作り上げている。重度化の指針も明確にし、近隣のクリニックと連携し看取りを行っている。ケアの指針を職員が共有する事でチームケアの実践に繋げている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、毎日出勤時に理念を唱え、新たな気持ちで、理念に添った介護に取り組むよう、常に指導を受けている。	玄関に理念を提示し、外部からの訪問者にも分かりやすくする事で職員の自覚を促し、常に意識づけを行うことでケアの実践に繋がっている。全員が「ほほえみの介護」を目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに積極的に参加している。苑の夏祭りには、地域の方にも呼びかけ、交流を図っている。	年2回程度、小学生との交流があり、ベルマークを集め、利用者と一緒に学校へ持参している。散歩を欠かさず、近隣の方達とも馴染みの関係になっている。交通安全の旗振り参加の計画も検討している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践と経験からなる認知症に対する知識は、地域包括支援センター主催のネットワーク会議に参加し、地域へ発信している。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、積極的な情報交換を行っている。会議で取り上げられた、意見や要望は、全体会議にはかりみんなで検討し、改善している。	2ヶ月に一度開催し、事故報告を重視した報告をするなど、意見交換を重ねている。地域の人を交え意見を出し合いケアの実践に繋がっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営や現場の実情、困っていることを、市長寿福祉課へ出向き、アドバイスを頂いたり、電話で聞いたりしている。	必要ごとに相談に出向いたり、ケアについての提案を受けている。また、担当の訪問もあり、が立ち寄ってくれる事もあり協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議の中で、職員の言葉かけ、行動が身体拘束につながっていないか、振り返りを行い、身体拘束をしないケアにつなげている。	具体的な内容を会議で話し合い、理解を深めている。庭や玄関からも自由に入出りでき、見守りを重視している。職員同士の声かけも徹底し取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の全体会議の中で、勉強会をして、全員に周知している。毎月の会議の中で、振り返りを行っている。	/	/

事業者名: グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で勉強してきた職員が伝達研修を行い全員に周知している。毎回会議時に、利用者への接し方について、気づきや反省点の振り返りを行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書を用いて、家族に十分な説明を行い、納得して頂き契約をしている。また、内容の変更や新たな契約が必要になった時は、その都度説明し納得を頂いたうえで、契約の締結をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時に、皆さんからの意見や要望を出して頂いたり、月のご家族への通信の中で、運営の現状報告に努めている。また、苑に気軽に来られ、なんでも言ってもらえるような、雰囲気づくりに留意している。	家族会を年2回開催している。家族の面会も多く、レクリエーションのアドバイスやボランティアで来てくれる事もある。意見や要望も管理者に言ってくれ運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月の全体会議や、個別での相談に応じ、話し合いの場を設けている。また、苑長自ら個別面談を行い、より風通しの良い、職場づくりに努めている。	全体会議などで業務内容の改善等の意見についても、必要に応じ話し合いを重ね運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別目標シートや、面談等により、個別の目標やスキルを正確に把握し、仕事に対する姿勢や、日頃の様子を加味した就業環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に内外の研修内容を通達し、各自の希望に添えるように、研修参加を促している。また、自己啓発の一つとして、月に2回勉強会も実施。法人内でも研修委員を設けて、定期的に、講習やトレーニングを実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県内の同業施設と連携し、研修会、交流会、職員交換実習を通じて、意識や技術の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わる時間をたくさん持ち、ゆっくりと話を傾聴し、信頼関係を築き、困っている事、不安に思っている事を、気軽に話して頂けるよう心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてゆっくりとお話を聞き、状況を把握しながら、苑としてできることをお話ししている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人やご家族がいまどういう状況で困っているのか、不安に思っているのか確認しその方にあつた支援をしている。また、緊急時は同事業所内で対応できるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、お互いに協働しながら感謝の気持ちをあらわしたり、コミュニケーションを図ることで、和やかな生活がおくれるように支援をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りの中で、体調、様子などを報告し、面会時やカンファレンスの時に、家族の思いや本人の意向を聞きだしたり、本人の暮らしぶりを職員が伝えることで、互いに協力し合っている。外出行事に参加して頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの時に、生まれ育つた所、以前住んでいた懐かしい場所に行っている。また、併設施設と協力し、馴染みの場所や人と関わりが途切れないようにしている。	併設施設に来る友人、知人との交流を継続したり、合同の忘年会等にも参加している。馴染みの場所に行ったり、家族の協力も得て、自宅の帰省や2ヶ月に一度、担当が外出等の個別支援に取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格、趣味生活習慣を職員が共有し、日々変わる利用者同士の関係については、情報を連携し、すべての職員が共有できるようにしている。行事やレクリエーションなどをどうして利用者同士が関わり合えるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の事業所に移られた時は、馴染みの職員が会いに行ったり、移るときには、アセスメントやケアプランや支援状況の情報を提供している。また退所後も、必要に応じてご家族と連絡をとっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、家族からセンター方式に沿った聞き取りを行っており、その際に認知症でなかったら何が出来るかを考えながらプラン作成に努めている。	一言シートを考案し、日々の関わりの中での言葉や表情を書き留め、意向の把握に努めている。プランに反映させ、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時(入所後も必要に応じて)にセンター方式に沿って聞き取りを行っている。認知症でわからない部分があるので、家族からの情報がほとんどである。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別支援を目標に行っており、一人一人、一日の過ごし方も異なっている。最大限、本人の有する力を活用するべく、ケアプランにも、出来ること、出来そうなことを中心に入れて、実行している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に本人、家族を含めて、カンファレンスを行って、ケアプランの見直しを行っている。モニタリングも担当職員に支援経過を記入してもいい、それを基に行い、プランの見直しも行っている。	家族参加のカンファレンスを開催し、意見交換を通じ、プラン作成を行っている。内容も具体的に盛り込み実践している。モニタリングも欠かさず行い現状に即した計画作成をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成し、時間単位で日々の様子を記録できるように改良して、それを基に支援経過を記録して、情報の共有とケアプランの見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外にも本人の出来そうな事を聞き取りながら、プランにも反映して、個別支援として実施している。		

事業者名: グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との繋がりを持つ為、地域への行事や苑の周辺を散歩して、地域の人にこんな人達が生活しているということを理解してもらいながら、いざという時に地域の人に協力してもらえようとしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人内の庄の原クリニックの医師と医療連携を結び、24時間365日連携を図れる体制を構築している。入所時は、本人、家族の希望で、同クリニックが主治医になれる体制を構築している。(強制ではない)	以前からのかかりつけ医受診を継続している。利用者も多く、家族や本人の希望に沿った受診をしている。家族が同行の場合は経過を文章にし、かかりつけ医に報告するなど、連携に努めている。家族の都合がつかない時は事業所での通院支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に往診、受診表を作成して、日々の変化や薬変更後の様子等を記録して、看護師と連携を図って、利用者が適切な医療を受けられるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、安心して治療が受けられるように家族と共に介護支援専門員が、医師、看護師とのカンファレンスに参加している。又、治療終了後に早期に退院が出来るように連絡、調整を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期についての話をし、施設として出来ること、出来ない事を伝えている。日々、状態も変化するので、3か月毎のカンファレンス時に希望を聞いて、状態が悪化すれば、同法人内の特養へ移行できる体制も整えている。	看取り指針を明確にし、家族、主治医と十分に話し合いを実践している。状態変化の都度に、家族と再度話し合い、意向に沿った支援をし、職員・関係者とチームで取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、事故発生時は、マニュアルに沿った対応が実践できている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度、防災訓練を実施している。運営推進会議で、自治会長や地域の人に協力を呼び掛けている。	2ヶ月に一度、訓練を実施し、近隣の方達の協力も得ている。防災業者の協力で消火器の取り扱い等の訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援は、必ず本人に確認、自己決定しやすいような言葉かけをしている。また、排泄介助の時は、傍にいき耳元で声掛けしている。訪室時は、ノックや名前を呼びながら開け、入室しているときは、ドアを閉めている。	会議の中で十分な話し合いを重ね、尊厳を重視したケアの展開を目指している。計画的に研修に参加し、意識づけを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		/	/
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、いろいろなことに参加できるように声掛けはしているが、無理強いせず、体調・思いを尊重している。本人の希望を聞きながら、個別でも対応支援している。	/	/
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方はしてもらい、声掛けや見守りを行っている。出来ない方は、本人の希望を聞きながら、一緒に選んでいる。	/	/
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、準備、配膳、片づけを利用者と一緒に行っている。月に4回のおやつ作りや、月に一回の昼食づくりで、自分で作る事の楽しみや、喜びを感じて頂いている。食事の時は、職員も一緒に同じテーブルで楽しく出来るようにしている。	一人ひとり能力に応じて役割分担をしてもらい生きがいに繋げている。職員もテーブルを囲み、楽しみながら食事が出来る雰囲気づくりに取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食チェックし、減少が見られるときは、ドクターに相談している。調理形態も利用者の体調や好みに合わせて、栄養士と相談しながら、提供している。	/	/
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が一人ひとりの口腔ケア介助、見守りを行い、就寝前にはずしてもらい、週3回消毒を行っている。(歯磨きが出来る方は磨いてもらい、その後職員が出来ていない部分を介助している。)	/	/

事業者名: グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録により、一人ひとりのパターンを把握して、トイレで排泄できるように声掛け、誘導を行っている。また、尿意の無い方は、時間を決めて誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	出来る限りの自立支援を目指して夜間も誘導し、排泄支援を行っている。言葉かけも自尊心を傷つけないように配慮し、介護計画にも詳しく記載している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日身体を動かすよう、体操、レクへの参加、苑外、苑内の散歩を行っている。一日の水分量や排便の有無をチェックし、予防にこころがけている。また、飲み物などを工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により入りたい日に入浴して頂いている。入浴中はう話をしたり、歌をうたったり、コミュニケーションを図りながら支援をしている。	毎日入浴できる仕組みにしている。嫌がる方に対しては、言葉かけや時間の工夫、家族の協力を受け、入浴支援に取り組んでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその時の状況、本人の希望により、居室のベッドで休んだり、テレビ視聴されたり、ソファにてゆっくりされている。夕食後は、就寝に向け穏やかに過ごせるよう、飲み物を提供したり、話をしたり、一緒に就寝の用意をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の個々のファイルを作り、職員が把握できるようにしている。服薬時は、職員が一人ひとり行い、飲み込むまで確認をしている。用法・容量が変更になった時は、職員に申し送りし記録をし体調変化があれば、ドクターの指示を仰いでいる		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力が発揮できるように、出来る仕事をお願いし、感謝の気持ちを伝えている。また、個別で楽しめるように本人の希望で、散歩、買い物ドライブ、生け花等出来るようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各月で本人の希望にそって個別で、夕食、買い物、ドライブなどにでかけたり、各月でグループごとに、ご家族やボランティアの方に参加をして頂き楽しんで頂けるよう支援している。	季節に応じた外出やドライブ等を実施し、毎日の散歩や自由に庭で喫煙等もできるように支援している。利用者同士の希望が合う場合は、グループ支援も検討している。	

事業者名: グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はほとんどの方は個人では管理していないが、外食、お買い物、移動販売等、職員と一緒にいき、自分で買い物をしたり、支払いが出来るように、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいと希望される方には、その都度、かけて頂いている。ご家族からかかった時は、電話口まで誘導し、ご家族とゆっくり話せるように配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間は明るく、照明やカーテンなどで調整をしている。ホールには季節感を感じられるように、絵や飾りなどを行っている。月一回の生け花で季節の花に触れる機会もあり、散歩などで随時季節を感じられるようにしている。	季節を五感で感じられるように壁等に写真や絵を貼っている。習慣に応じ、庭での喫煙や晩酌を楽しめる支援を行っている。ソファ・テーブル・椅子の配置を考え、好きな場所で過ごせるように配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テレビ、新聞、本などがあり、ソファ席やテーブル席で自由にゆっくり過ごしてもらえるようにしている。また、食事の時の席も、楽しく食事出来るようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や、なじみのものを置いたり、写真を飾ったりして、自分の部屋だとわかるように、また、安心して居心地良く過ごせるような空間づくりをしている。模様替えは、本人とやご家族と相談しながら行っている。	一人ひとりの個性に合わせた居室になっている。家族の写真や昔から大切にしていた物などを配置し、本人が安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内移動、浴室、トイレは手すり設置で安全、安心にできるだけ自分で出来るようにしている。		